

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 6 年 9 月 調査結果 - -

(平成 1 6 年 9 月 3 0 日)

調査期間：平成 1 6 年 9 月 1 5 日 ~ 2 2 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 8 9 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 3 製造業 6 2 4 卸売業 2 3 3
小売業 7 3 9 サービス業 6 1 0

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

業況DIは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、足踏みが続く

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（27.4）よりマイナス幅が3.2ポイント拡大して30.6となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

業種別の業況DIは、建設を除く4業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況DIもマイナス幅が拡大した。引き続き各業種で業況は好調との声はあるものの、業種間、企業間の格差も大きい。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、依然として消費の低迷や、公共事業の縮小、原油、素材価格の高騰による仕入れコスト上昇などの不安材料を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「台風の影響により建築需要が増加」（建築工事）、「市町村合併前で公共工事の前倒し発注により、前年同月より受注額が増加している」（一般工事）といった声はあるものの、「受注高は前年同月比でかなり減少し、人員整理も進んでいる」（建築工事）との声や、「10月に鋼管類の値上げが予定され、一段と採算が悪化する見通し」（管工事）と、仕入コスト上昇を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「受注残が多く、採算の良いものから優先してこなしている状況で、設備更新の余裕も出てきた」（輸送用機械部品）といった声の一方、「デジタルカメラや携帯電話を中心に在庫が過剰気味のため、年内は減産傾向とみられ、来年以降に新製品が立ち上がるまで、一層の減産が予想される」（電子部品）との声や、「重油価格の高騰によりキロ当たり30～35円の原材料値上げとなり、製品に転嫁できずその分は採算悪化」（工業用プラスチック）と、仕入コスト上昇を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「新車市場は秋口にかけてメーカー各社が多数のニューモデルを投入しており、その効果で秋の商戦は活発に動きつつある」（自動車）との声はあるものの、「残暑はあっても季節的には過ごしやすくなり、食の消費は伸びてくると思われたが、なかなか苦戦している」（各種商品）、「台風による被害で農産物の仕入単価が上昇」（農畜産水産物）といった声も寄せられている。

【小売業】では、「売上は前年同月比105%で飲食、婦人衣料の好調な店が多く、前年度実績を上回る店舗が多くなってきた」（各種小売）との声の一方、「残暑が続いているため、秋物の立ち上がりが遅れている」（商店街）といった声のほか、相次ぐ天災の影響について、「浅間山の噴火、紀伊半島・東海沖地震、台風の影響などから防災用品が好調」（百貨店）との声や、「台風や地震の影響もあり業況は良くない状況」（商店街）といった声が寄せられている。

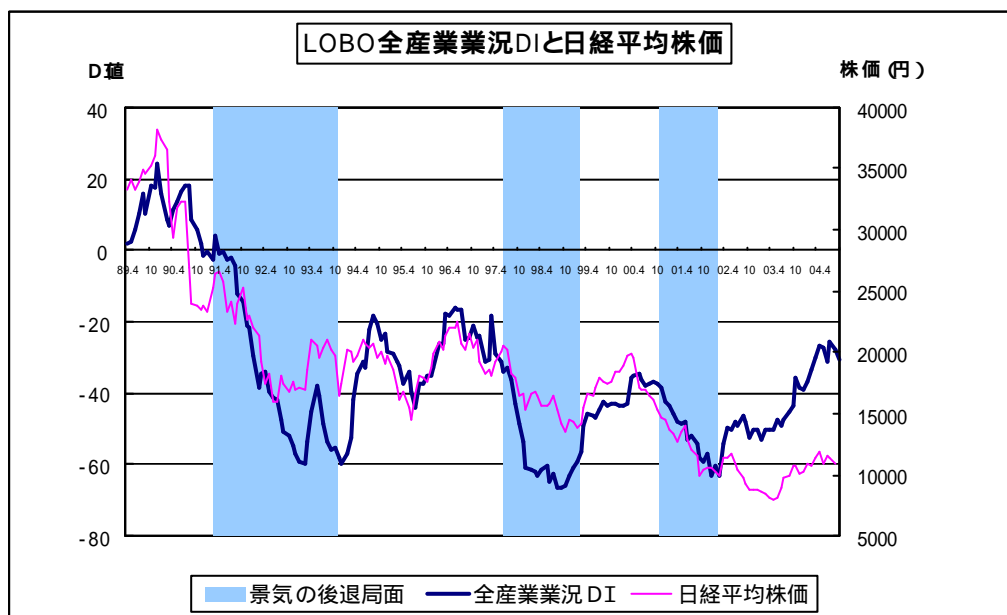
【サービス業】では、「宿泊施設の客数は、夏場は前年より落ち込んだが、修学旅行や個人の客が増えてきた」（旅館）といった声の一方、「景況感はいくらか改善されているようだが、個人消費は相変わらず鈍い」（すし店）との声のほか、「突然、温泉の偽装問題が各地で発覚し、利用者の信頼が揺らぎイメージダウンにつながってきた」（旅館）と、温泉虚偽表示問題の影響や、「軽油が1リットル2～3円の値上げとなり、採算が悪化している」（運輸）と、原油価格高騰の影響を訴える声などが寄せられている。

売上面では、D I値のマイナス幅は建設を除く4業種で拡大したため、全産業合計の売上D Iは3.2ポイント拡大して 26.4となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

採算面では、D I値のマイナス幅は卸売を除く4業種で拡大したため、全産業合計の採算D Iは2.8ポイント拡大して 31.6となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(10月~12月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が 23.2と、昨年同時期の先行き見通し(31.2)と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、引き続き各業種から業況は好調との声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴える声が依然として寄せられており、台風や地震の影響や、原油、素材価格の高騰による仕入コストの上昇に関するコメントも多く見られた。



【業況についての判断】

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（27.4）よりマイナス幅が3.2ポイント拡大して30.6となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

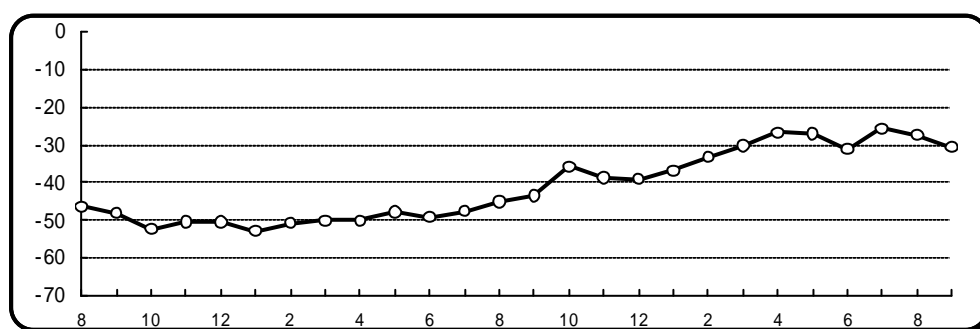
向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が23.2と、昨年同時期の先行き見通し（31.2）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	26.8	27.1	31.1	25.7	27.4	30.6	23.2 (31.2)
建設	50.4	49.1	55.0	49.1	43.7	42.1	35.9 (44.5)
製造	14.6	9.1	17.8	8.5	14.6	18.4	15.3 (24.9)
卸売	26.8	29.6	26.4	28.0	33.7	34.5	19.5 (22.2)
小売	27.7	35.3	35.9	30.0	31.5	33.6	26.5 (32.3)
サービス	23.4	21.2	25.0	22.2	22.4	31.2	20.8 (31.3)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年9月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

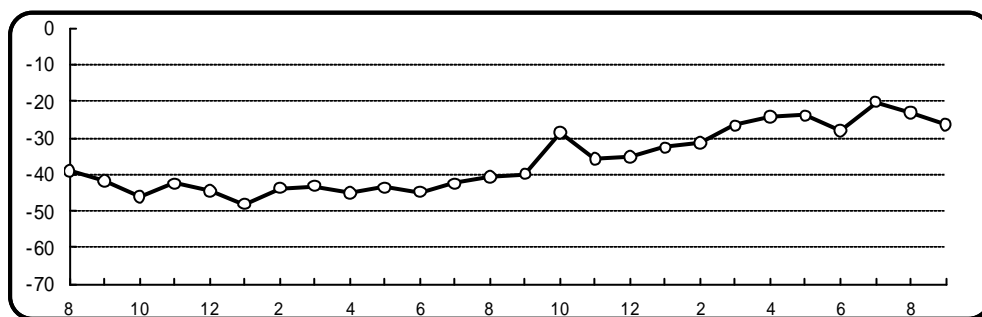
売上面では、DI値のマイナス幅は建設を除く4業種で拡大したため、全産業合計の売上DIは3.2ポイント拡大して26.4となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI(今月比ベース)が17.5と、昨年同時期の先行き見通し(25.8)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	24.3	23.9	28.0	20.2	23.2	26.4	17.5 (25.8)
建設	46.7	41.5	42.1	44.6	38.8	35.1	28.9 (42.1)
製造	3.3	0.9	7.8	0.4	8.1	10.8	5.9 (19.1)
卸売	26.8	27.7	30.1	20.1	29.5	34.5	15.2 (17.3)
小売	29.5	36.7	38.3	25.8	28.2	31.1	21.7 (26.6)
サービス	24.8	22.2	26.9	19.1	20.0	28.6	18.3 (24.6)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

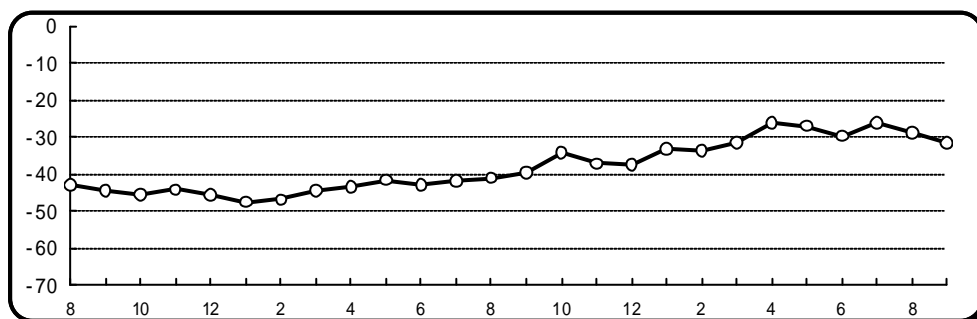
採算面では、D I 値のマイナス幅は卸売を除く4業種で拡大したため、全産業合計の採算D Iは2.8ポイント拡大して31.6となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(10月~12月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が21.5と、昨年同時期の先行き見通し(28.5)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	26.3	26.9	29.7	26.2	28.8	31.6	21.5 (28.5)
建設	49.4	49.1	52.9	52.1	45.5	48.7	38.1 (45.4)
製造	17.6	15.0	21.9	17.1	23.8	24.4	15.0 (25.1)
卸売	20.4	28.9	23.9	21.3	31.3	27.4	17.2 (19.8)
小売	22.9	27.5	28.1	22.8	28.1	29.1	18.3 (23.0)
サービス	26.8	23.6	26.7	24.7	22.6	32.8	23.3 (30.9)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	21.1	21.6	22.8	20.5	20.0	21.2	19.3 (25.5)
建設	35.4	37.9	37.5	40.8	36.5	36.1	33.5 (42.3)
製造	21.0	14.8	18.6	14.7	16.2	16.3	15.0 (20.7)
卸売	19.2	23.3	23.1	14.2	16.8	17.4	11.4 (18.2)
小売	14.2	17.2	18.2	17.4	16.0	19.1	17.6 (22.3)
サービス	19.3	22.0	21.2	17.7	17.3	19.6	19.5 (25.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設を除く4業種で悪化超感が強まったため、全産業合計でも3カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	13.3	14.7	15.9	15.1	14.1	16.5	14.7 (5.5)
建設	20.8	22.4	27.2	24.1	21.5	23.1	25.0 (4.5)
製造	30.3	30.0	31.9	32.1	31.2	35.7	26.5 (8.2)
卸売	9.6	9.4	9.3	12.3	6.0	14.6	17.8 (6.8)
小売	0.8	1.4	1.6	1.8	2.7	3.0	3.3 (2.5)
サービス	9.1	11.0	11.4	7.9	8.2	8.4	7.4 (6.6)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で上昇超感が強まったため、全産業合計でも3カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	7.6	8.6	7.5	6.2	6.2	5.3	6.8 (11.8)
建設	30.8	29.9	27.4	27.6	25.6	23.0	15.8 (25.6)
製造	9.2	5.3	6.0	3.6	6.2	3.2	7.5 (14.5)
卸売	10.8	11.9	10.4	6.7	7.2	9.7	9.2 (6.9)
小売	0.2	3.0	1.2	1.0	0.8	2.0	5.6 (6.9)
サービス	1.0	3.5	2.2	0.5	1.2	2.3	0.3 (7.0)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】卸売、小売を除く 3 業種で過剰超感が弱まったため、全産業合計でも 2 カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通し D I】卸売を除く 4 業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成16年9月の景気キーワード】

回復への動き

引き続き各業種から、業況の改善と先行きに期待する声が寄せられており、建設、製造からは「市町村合併前で公共工事の前倒し発注により、前年同月より受注額が増加している」(七尾・一般工事)「自動車、電機、プレハブメーカー向けの鋼材需要は堅調で、業界ではしばらく好業況が続くと思われる」(呉・製鉄業)「自動車金型、FA機器、鋳物関係は相変わらず好調で、全般的に受注量、収益状況も改善されている」(松山・一般産業用機械製造)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからも、「繊維類、秋物衣料は秋季展示会では売上が前年比6%増で、スタートは好調」(大分・衣服、日用品卸売)「メンズカジュアルなどを中心に動きが良く、背広などの実用衣料も伸びている」(福島・百貨店)と、消費が好調との声や、「当商店街の景況感はいまだ不透明だが、以前よりやや明るさが見えつつあるように思われる」(横浜・商店街)「秋口になり会合等が増加傾向にあり、収益性は少し改善傾向になりつつある」(檀原・旅館)と、先行きに期待する声が寄せられている。

景況感格差

景気の現状と見通しについて、不安材料を訴える声も多く、景況感の格差が続いている。「公共工事の減少が続き、当分厳しい状況が続くと思われる」(甲府・一般工事)「中国向けの受注に減少傾向が見られる」(大阪・繊維機械製造)「携帯電話、デジタルカメラ等の販売が頭打ちになりつつあり、今後の受注に不透明感」(茅野・電子部品製造)「個人消費に良い材料は見当たらず、豊作で米価の下落も予想され近郊農家の消費拡大も期待できない」(盛岡・各種商品卸売)と、先行き不透明との声や、「敬老の日の連休に全旅館・ホテルが満室になった以外は、前年同月と比較にならない程の落ち込み」(会津若松・旅館)といった声が寄せられている。また、「鉄材と石油製品の値上がりで、採算の悪化が予想される」(帯広・一般工事)「原油高が継続の見込みで染料、薬品等のコストアップ分を製品価格に転嫁できない」(金沢・織物製造)と、依然、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

天災

今月は台風や地震による天災の影響についてのコメントが寄せられている。「台風による風倒木の影響で木材価格が下がっている」(廿日市・建築材料卸売)「台風の影響で客の来ない日があったり、キュウリ、トマト、ホウレンソウなどの仕入れ値が上がったが売値に反映できず厳しい」(川之江・百貨店)「二度の台風により、飲食業は総じて売上減少の店舗が多い」(北九州・食堂、レストラン)「残暑と台風による休業で、著しく業績が悪化」(福岡・スポーツ施設)といった声が寄せられている一方で、「台風被害の復旧工事と道路建設で土木工事は活況」(釧路・一般工事)「耐震施工工事が多くなった」(大府・建築工事)「地震、台風の影響により、防災用品の売上が好調」(豊川・百貨店)とのコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
16年	7月	回復への動き	景況感格差	猛暑の影響
	8月	回復への動き	景況感格差	天候の影響
	9月	回復への動き	景況感格差	天災

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、採算D Iは3カ月ぶりに拡大した。「台風の影響により建築需要が増加」(建築工事)、「市町村合併前で公共工事の前倒し発注により、前年同月より受注額が増加している」(一般工事)といった声はあるものの、「公共工事専門業者は業績悪化に歯止めがかからず、建築との併用業者は住宅建設の受注獲得に取り組んでいる」(一般工事)、「受注高は前年同月比でかなり減少し、人員整理も進んでいる」(建築工事)との声や、「10月に鋼管類の値上げが予定され、一段と採算が悪化する見通し」(管工事)と、仕入コスト上昇を訴える声が寄せられている。
製 造	業況、売上、採算D Iとも、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「受注残が多く、採算の良いものから優先してこなしている状況で、設備更新の余裕も出てきた」(輸送用機械部品)、「鉄鋼向け出荷が安定し、化学工業向けの需要増加のため、売上は前年同月比109%に増加」(窯業、土石)といった声の一方、「デジタルカメラや携帯電話を中心に在庫が過剰気味のため、年内は減産傾向とみられ、来年以降に新製品が立ち上がるまで、一層の減産が予想される」(電子部品)との声や、「重油価格の高騰によりキロ当たり30～35円の原材料値上げとなり、製品に転嫁できずその分は採算悪化」(工業用プラスチック)と、仕入コスト上昇を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「新車市場は秋口にかけてメーカー各社が多数のニューモデルを投入しており、その効果で秋の商戦は活発に動きつつある」(自動車)との声はあるものの、「残暑はあっても季節的には過ごしやすくなり、食の消費は伸びてくると思われたが、なかなか苦戦している」(各種商品)との声や、「台風による被害で農産物の仕入単価が上昇」(農畜産水産物)、「台風の連続によりせっかくの残暑の季節が散々になり、高波、強風による塩害で被害甚大で先行きも見通しが悪い」(食料、飲料)と、天災の影響を訴える声も寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「売上は前年同月比105%で飲食、婦人衣料の好調な店が多く、前年度実績を上回る店舗が多くなってきた」(各種小売)との声の一方、「競争激化により来客数が減少し、一点当たりの単価、お客一人当たりの単価も減少している」(各種小売)、「残暑が続いているため、秋物の立ち上がりが遅れている」(商店街)といった声が寄せられている。また、相次ぐ天災の影響について、「浅間山の噴火、紀伊半島・東海沖地震、台風の影響などから防災用品が好調」(百貨店)との声や、「台風や地震の影響もあり業況は良くない状況」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「宿泊施設の客数は、夏場は前年より落ち込んだが、修学旅行や個人の客が増えてきた」(旅館)、「必ずしも業況好転とは言えないが、昨年来の人員の配置転換による有効活用により、採算は好転の方向にある」(ソフトウェア)といった声の一方、「景況感はいくらか改善されているようだが、個人消費は相変わらず鈍い」(すし店)との声や、「突然、温泉の偽装問題が各地で発覚し、利用者の信頼が揺らぎイメージダウンにつながってきた」(旅館)と、一連の温泉虚偽表示問題の影響を訴える声、「軽油が1リットル2～3円の値上げとなり、採算が悪化している」(運輸)と、原油価格高騰の影響を訴える声などが寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東海でマイナス幅が縮小し、関東で横ばいとなったが、他の7ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも2カ月連続で拡大した。

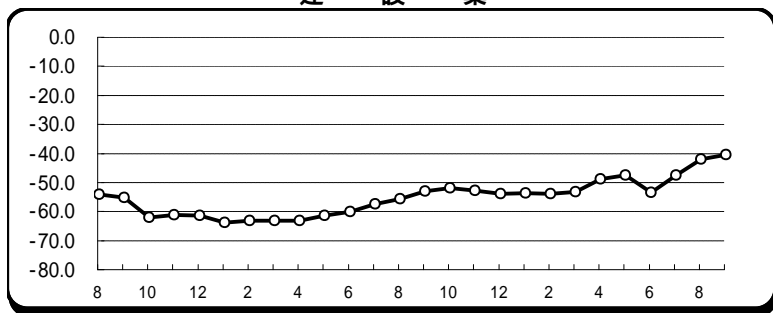
ブロック別の向こう3カ月(10月~12月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べて改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

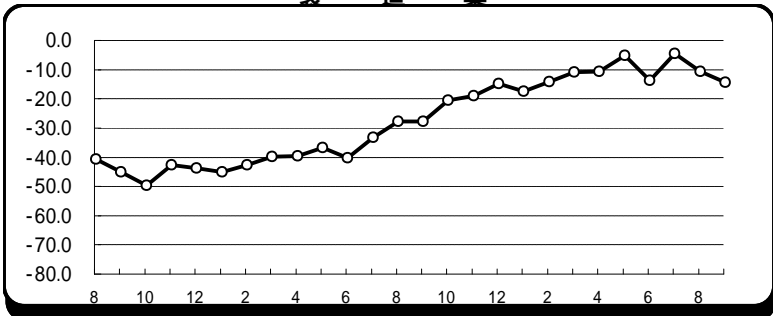
	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全 国	26.8	27.1	31.1	25.7	27.4	30.6	23.2 (31.2)
北海道	23.4	28.0	31.8	28.7	28.1	28.4	28.7 (36.2)
東 北	36.7	33.1	36.0	31.1	30.7	35.9	37.3 (34.0)
北陸信越	28.5	25.3	27.5	27.4	22.0	35.0	31.6 (28.2)
関 東	20.6	23.8	29.0	22.1	23.0	23.0	16.5 (29.2)
東 海	27.1	23.0	28.0	18.8	24.3	23.4	18.0 (23.9)
近 畿	30.4	27.5	29.2	28.2	34.3	35.4	24.2 (34.2)
中 国	26.4	31.3	34.6	26.7	30.3	33.3	26.5 (29.4)
四 国	32.2	30.0	38.7	31.7	36.2	43.4	20.6 (29.7)
九 州	24.3	29.3	32.1	23.3	24.1	29.3	17.8 (37.0)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

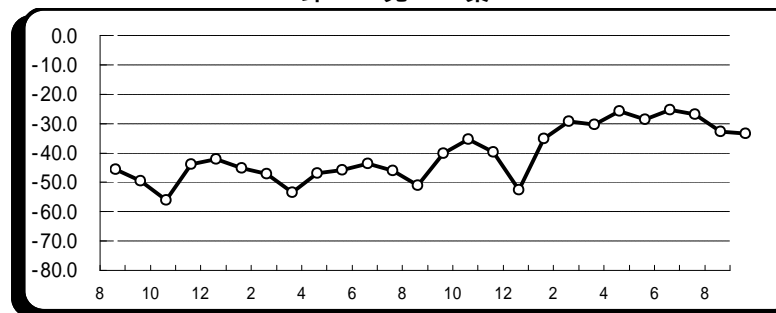
建設業



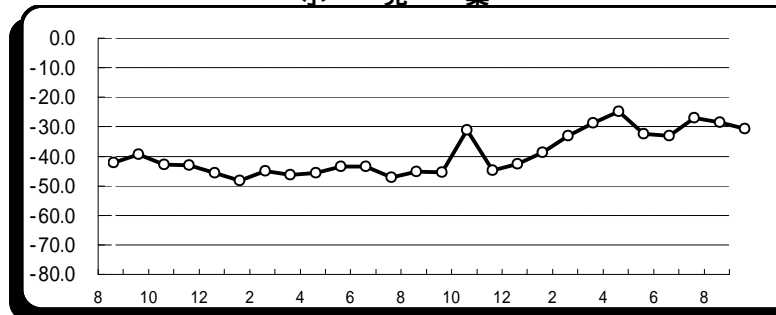
製造業



卸売業



小売業



サービス業

